



● 狂言清 しみず  
水

小笠原 匡

● 仕舞 敦盛 あつもち  
今村 一夫

松風 まつかぜ  
波多野 晋

小鍛冶 こかじ  
林本 大

● 能 菊慈童 きくじどう 遊舞之樂 ゆうぶのがく  
山本 順之

不思議な水が湧き出した山の麓。  
勅使がその水上を訪ねるとそこには  
七百年もの間老いる事無く生き続けた  
慈童という名の少年がいたが...

平成26年9月7日(日) 1時開演

# 9月のたにまち能



● 能 江口 えぐち  
山本 博通

都から天王寺へ向かう  
旅の僧侶たちの前に現れた若い女。  
女は自分がかつて西行法師と  
和歌のやりとりをした遊女の霊だと名乗る。



86th  
山本能楽堂  
Since 1928

■主催/公益財団法人 山本能楽堂

■後援/大阪府・大阪市・公益財団法人 関西・大阪21世紀協会  
■助成/平成26年度 トップレベルの舞台芸術創造事業

国登録有形文化財  
山本能楽堂  
公式ホームページを  
ご覧ください  
<http://www.noh-theater.com/>

入場券 ●一般券 5,500円 ●学生券 3,000円 繰り割引券(3回分) ●一般券 15,000円 電子チケットぴあ [pia.jp/t](http://pia.jp/t) (Pコード 432-835) 0570-02-9999  
お問い合わせ 山本能楽堂/Tel. 06-6943-9454 Fax. 06-6942-5744 公式ホームページ <http://noh-theater.com/> e-mail [info@noh-theater.com](mailto:info@noh-theater.com)

※山本能楽堂は平成18年12月に国登録文化財に指定されました。

午後1時始

能「菊慈童」遊舞之楽

シテ(慈童) 山本 順之  
ワキ(勅使) 福王 知登  
ワキツレ(従臣) 広谷 和夫  
ワキツレ(従臣) 中村 宜成

後見 山本 博通  
今村 宮子  
地謡 山本 章弘  
波多野 晋  
森本 哲郎  
今村 一夫  
林本 大有  
吉山 有  
朝原 広基  
山本 麗見



山本 順之

●あらすじと解説

中国は魏の文帝の時代。鄴縣山の麓から不思議な水が湧き出したので、その水を訪ねて勅使(ワキ)が山に向かうと、そこは、菊の花の咲き乱れる仙境で、周の穆王の時代より七百年もの間老いることもなく生き続けたという慈童という名の少年(シテ)がいた。慈童は穆王に賜った枕に記された法華經の文を菊の葉に書き付けると、菊に宿った露が不老不死の靈薬(酒)になったと言い、経文を讀んで舞う。慈童はその不老不死の靈薬を魏の文帝に捧げた後、菊を掻き分けて、庵の中に姿を消すのだった。観世流では「菊慈童」といいますが、他の流儀では同じ曲を「枕慈童」と呼んでいます。観世流の「枕慈童」は似た別の曲です。「鄴縣山」の山の名を「れつけんざん」と読むのも観世流のみで、ほかの流儀では「てつけんざん」と発音するなど、観世流のみ独自色が強い形になっています。

「遊舞之楽」は「楽」の舞の笛が整奏の調子になり、全体的にノリが良くなります。また、舞の型も変化して、橋掛などに行くこともあります。

余談ですが、炭火が使える卓上こんろ(飛騨こんろ)の表面の補強に貼られている和紙には、この「菊慈童」の謡本の紙が使われているのを時々見かけます。使用者への長寿のねがいが込められているのだそうです。

笛 左鴻 泰弘  
小鼓 荒木 賀光  
大鼓 上野 義雄  
太鼓 三島元太郎

狂言「清水」

シテ(太郎冠者) 小笠原 匡  
アド(主) 山本 豪一

後見 泉 慎也

●あらすじと解説

茶会の準備のため、主人は召使の太郎冠者を野中の清水へ水汲みにやります。冠者の度に水汲みをさせられるのを迷惑に思い、清水に鬼が出たと嘘をついて桶をおいて戻ってきます。しかし不審に思った主人が清水まで見に行くと云うので、冠者はあわてて先回りをするようになりますが……。

この主人と従者の対立を軽妙に描く、太郎冠者狂言の名作です。狂言「清水」のほか、いくつかの狂言で、面を小道具として使用されるのは、能とは異なる狂言ならではの使用方法です。

仕舞「敦盛」今村 一夫 「松風」波多野 晋 「小鍛冶」林本 大

地謡 河村 栄重 森本 哲郎 高橋 京子 山本 麗見

休憩10分

能「江口」

前シテ(里女) 山本 博通  
後シテ(江口ノ君) 今村 宮子  
後ツレ(遊女) 今村 和子  
後ツレ(〇) 前田 和幸  
ワキ(旅僧) 福王 和幸  
ワキツレ(従僧) 喜多 雅人  
ワキツレ(〇) 是川 正彦  
アイ(里人) 小笠原 匡

後見 山本 勝一  
山本 章弘  
河村 栄重  
地謡 波多野 晋  
松浦信一郎  
今村 一夫  
林本 大有  
吉山 有  
高橋 京子  
朝原 広基  
山本 麗見



山本 博通

●あらすじと解説

旅の僧侶たち(ワキ・ワキツレ)が都から天王寺へ向かう途中、かつて西行法師と和歌をやりとりした江口の遊女の旧跡に行きかかると、若い女(前シテ)に呼び止められる。西行が江口の遊女に宿を求めた際の話をしていううちに、女は実は自分は遊女の霊だと名乗るかと思う姿が消えた。(中)

僧侶たちが江口の遊女の跡を吊っている、川に屋形船が浮かび、遊女たちが過去の姿で現れる。遊女たちは、身の上のはかなさを嘆き、遊女の身となった罪業や世の無常を得が、人の世の迷いが集まっているこの身こそ却って悟りに繋がるのだと述べ、舞を舞う。やがて、船は白象となり、遊女は普賢菩薩となって、西の空へと消えて行くのであった。

江口の里は、中世初期には神崎と並んで天下第一の歓楽の地として全国に知られていました。遊女たちは船に乗って、鼓を打ちながら今様や朗詠を歌いかけた様子が、「法上人絵伝」などに描かれています。中世の絵画に描かれた遊女の姿を、シテ・ツレ三人で登場し、中央の遊女は大口を履くなど、この能(江口)はかなり忠実に写し取っています。しかし、華麗な遊女たちは、実は戦乱や重税で疲弊した各地の莊園などから流れてきた者たちであって、その様子を宗教的な崇高さと重ね合わせて描いた名作です。世阿弥自筆の台本が残り、作者も世阿弥ではないかとされています。

(文責：朝原広基)

笛 赤井 啓三  
小鼓 林 吉兵衛  
大鼓 河村 大

午後4時半頃終了予定

公益財団法人 山本能楽堂 賛助会員募集のお知らせ

山本能楽堂は大阪市中央区徳井町(谷町4丁目)に、山本家先代 山本 博之が、昭和2年に建設しました。その後戦火に逢い、一度焼失しましたが、昭和25年に再建し現在に至っております。

そしてこの度、更なる能楽の普及、発展をめざし、公益財団法人 山本能楽堂を発足致しました。それに伴い、さらに広く皆様方に能楽の楽しさに触れ魅力を感じて頂くため、平成19年度より賛助会員を募集させて頂く事になりました。

ご入会頂きますと「たにまち能(山本定期能)」のご招待、各種公演の御案内、山本能楽堂のご使用料金の割引等の特典を受けて頂く事ができます。お一人でも多くの方にご支援頂き、能楽の普及にお力添えを賜りますれば、何より有難く、御賛同賜ります様よろしくお願ひ申し上げます。

	個人会員 A	個人会員 B	法人会員
年会費1口	10,000円	30,000円	100,000円
ご招待(一口あたり)	たにまち能招待券2枚 (通常11,000円)	たにまち能招待券6枚 (通常33,000円)	たにまち能招待券など もしくは舞台使用料を会費分値引
その他の特典	●各種公演の御案内を無料送付 ●会員様のみイベントに参加		

●招待券はご本人様以外でもご利用いただけます。 ●ご入会頂いた方には、税制上の優遇があります。詳細は能楽堂までお問い合わせ下さい。

●通常「たにまち能」は年間6回の公演で、1回につき2種類の能と狂言の構成になっております(1回は素謡会)1回券 5,500円

●招待券は1月から12月までの公演でお使いいただけます。

※素謡会とは「能」の要素には謡(歌)と舞があります。お囃子や舞、動き、装束などを除いた謡の部分の聞いていただくもので、謡の美しさや妙味を楽しんでいただきます。

ご入会頂けます方は、下記お問い合わせ先までおたずね下さいませ。後日、(公財)山本能楽堂より書類をお送りさせていただきます。会員になられる前に、能楽堂の見学をご希望の方はご連絡下さい。

国登録有形文化財 山本能楽堂 改修事業募金のご協力をお願い

山本能楽堂は、文化庁の「重要建造物等公開活用事業」として、この度初めての耐震補強を中心とした改修事業を行わせて頂きます。「国のため」である能楽堂を次世代に継承し、日本の伝統芸能を守るためにも、広く皆様方のご協力をお願い申し上げます。なお、1口1万円以上ご寄付頂いた方のお名前を山本能楽堂内に掲示させて頂きます。(ご希望の方のみ)皆様方からのご支援をよろしくお願ひ申し上げます。



コシノヒロコ

お申込方法等、詳しくは  
下記(公財)山本能楽堂までお問い合わせください。  
詳細をお送りさせていただきます。

■主催/公益財団法人 山本能楽堂  
■後援/大阪府・大阪市・公益財団法人 関西・大阪21世紀協会  
■助成/平成26年度 トップレベルの舞台芸術創造事業

山本能楽堂 / Tel. 06-6943-9454 Fax. 06-6942-5744  
e-mail info@noh-theater.com  
山本能楽堂のホームページ / http://www.noh-theater.com/



地下鉄谷町4丁目④番出口より、北に一筋目の角を左へ100m、南側(徒歩2分)

※許可なき撮影、録音は著作権、肖像権などに抵触いたしますので、ご遠慮下さいませようお願い申し上げます。

次のたにまち能

平成26年12月7日(日) 13時開演  
於 山本能楽堂

- 能 通小町 山本 章弘
- 狂言 栗焼 小笠原 匡
- 能 葛城大和舞 河村 栄重